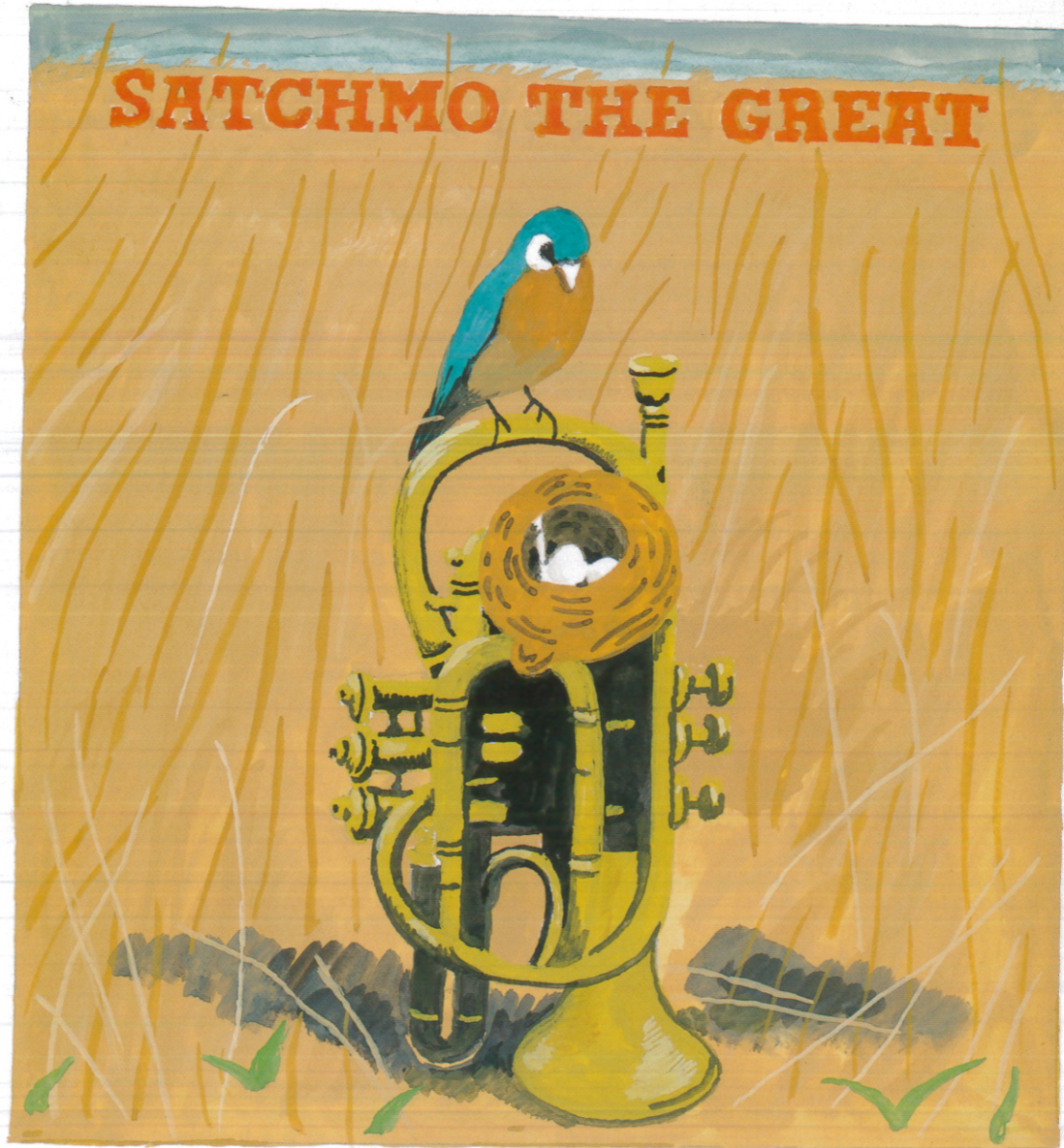


週刊文春

8月4日号 定価400円



週刊文春 八月四日号

昭和三十四年四月二十一日第三種郵便物認可
平成二十八年八月四日発行(木曜日発行)(七月二十八日発売)

第五十八巻 第三十号

編集人 新谷 鈴木洋嗣

発行人 東京都千代田区紀尾井町三十三
郵便番号一〇二一八〇〇八

株式会社文藝春秋 代表取締役 32651211

定価四〇〇円
次号発売まで

本体三七〇円

週刊文春 2882

のんだあとはリサイクル。① サントリー食品インターナショナル株式会社 サントリーフーズ株式会社 <http://suntory.jp/GOMAMUGICHA/>

水と生きる SUNTORY

血圧130 超えたら

胡麻麦茶



※血圧が高い方は、高血圧(収縮性血圧においては130~139mmHg)に該当する方になります。食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。

雑誌 20401-8・4



4910204010865
00370

Printed in Japan
凸版印刷株式会社印刷

薬の安全な「飲み方」

「やめ方」教えます



指の運動をする認知症患者たち(写真はイメージ)

認知症薬をやめて暴力・暴言が治まったケースもほか

ジャーナリスト 鳥集 徹 + 本誌取材班

「十年ほど前、ジプレキサを飲んでいたので、三日に一度ほど眼球上転(目のピントが合わなくなる症状)が起きていました。仕事に支障が出るので、自己判断で薬をやめてみたんです。そしたら、『誰かにつけられている』『盗聴されている』『監視されている』という妄想が出てしまいました。ついには駐在所の電話線を引っっこ抜いて、そのまま警察署に連行されてしまい、四カ月も措置入院するハメになりました」

認知症薬への大きな誤解

今回は「認知症薬」「抗うつ薬」「抗精神病薬」「頭痛薬」を取り上げる。いずれも、週刊現代の記事で危険性を指摘されていた薬だ。だが、くれぐれも自己判断せず、医師と相談しながら減らしてほしい。この記事が薬を見直すきっかけになれば幸いだ。

【認知症薬】

厚生労働省によると、二

トル会長の森田康雄さん(41)だ。
「ジプレキサ(一般名・オランザピン)は、統合失調症に使われる「抗精神病薬」で、週刊現代の記事の「飲み続けてはいけない薬リスト」にも入っていた。薬に副作用があり、飲み続けると害があるのは、その通りだ。だが、利益が害を明らかに上回るならば、飲み続けたほうがいいのかもある。それに、やめるにしても、上手く減らしていかなければ、森田さんのように、かえって危ない目に遭うかもしれない。

〇二二年の認知症患者は、全国に約四百六十二万人で、二〇二五年には七百万人を超えると推計されている。認知症患者の増加は高齢社会の宿命だが、それとともに、薬を飲む人もますます増えるだろう。

だが、まず知っておいて無駄に薬を飲んで、健康に悪影響が出ている患者は少なからずいるだろう。しかし、勝手に飲むのをやめると、危険な薬があるのも事

ほしいのが、認知症薬の効果は、限定的なことだ。千葉大学医学部附属病院地域医療連携部特任准教授で、精神科医の上野秀樹医師が解説する。
「認知症薬に関しては、大きな誤解があります。認知症薬の主な効能・効果は、『アルツハイマー型認知症の進行抑制』とされています。そう聞くと、多くの人が『認知症による神経細胞の減少や脳の萎縮が防止できる』と考えますが、それは違います。薬を飲んでいても、脳の変化は進んでいるのです」

では、実際の効果とは、どのようなものなのでしょう。現在、認知症薬には、「アリセプト」という商品名でよく知られているドネペジルを筆頭に、ガラランタミン、リバスチグミン、メマンチンという四種類がある。

これらのうち、最初の三つは「アセチルコリンエステラーゼ阻害薬」といって、脳内の精神活動を活発

実だ。今回は自己判断で薬をやめると影響が出やすい抗精神病薬や、使用している人が多し認知症薬、抗うつ薬、頭痛薬を取り上げる。

ていると、『もしかしたら脳の萎縮を止めているかもしれない』と思って、薬をやめることができませぬ。しかし、実際に期待できる効果は、認知機能の一時的な改善による生活障害の進行抑制なのです。したがって、薬を使ってみて、一時的な認知機能の改善などがあれば続けた方がいいですが、そうでなければやめてもいいのです(上野医師)

多剤大量処方まで寝たきりにも

認知症薬を飲んで、本人や家族が効果を実感しているなら、飲み続けるという

だろう。だが、効果が実感できないのに、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、手足のふるえ、こわばりといった副作用ばかりが出る場合は、中止を検討したほうがいい。とくにやめたほうがいいのが、暴言や暴力をふるう患者だ。認知症薬のために、攻撃的になっている可能性があるからだ。認知症介護

研究・研修東京センター運営委員で、精神科医の須貝佑一医師が解説する。

「攻撃的になり過ぎる人は、まず認知症薬をやめるのが原則です。それで変化があれば、この薬が原因だったということになる。私たちの経験でも、攻撃的になった患者さんの約半数は、薬をやめてよくなりました」

なぜ、認知症薬で攻撃的になるのか。
「アセチルコリンエステラ

ーゼ阻害薬は、簡単に言うと興奮剤なのです。なので、もともと怒りっぽい人や短気な人に使ってはいけません。ところが、攻撃的になるのが元々認知症のためなのか、それとも薬が原因なのか、たくさん認知症患者を診ていないと見分けがつきにくいのです。そのため、漫然と薬が処方されているケースがあるのは否定できません(同前)

認知症薬による興奮症状を抑えるために、さらに抗精神病薬や抗不安薬などが処方され、その副作用で寝たきりになる患者もいる。それだけに十分注意してほしい薬だが、こんな意見もある。鳥取大学医学部教授の浦上克哉医師はこう話す。

「薬の効果が期待できない人や寝たきりになった人は、薬の減量や中止を検討するのが妥当な判断だと思います。ただし、杓子定規にやめるべきではありません。というの、寝たきりになっていても、『やめな

認知症・頭痛編

田島医師(上)、須貝医師、上野医師(右)



正しい知識があなたの命を守る②

いほほしい」というご家族がいるからです。主治医がそれを聞き入れずにやめたところ、それまでは呼びかけたら笑顔を見せたり、手を握り返してくれていたのが、まったく反応しなくなっていました。この薬を飲み続けるかどうかは、効果の限界や副作用も理解したうえで、本人や家族の価値観も加味して判断するのがよさそうです。

厚労省の「平成二十六年患者調査」によると、うつ病など気分障害の患者数は百一十万人と、調査開始以来、最多となった。患者の増加にともない、抗うつ薬を飲む人も増えた。現在、主流となっている抗うつ薬は「SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）」と「SNRI（セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬）」の二種類だ。日本では一九九九年以降に発売が開始されたが、従来の抗うつ薬に比べて副作用が少なくとされたこともあって、急激に服用者が増えていった。

しかし、精神科の受診者が増えるのにもない、抗うつ薬に加えて、抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬など何種類もの薬を大量に処方される患者が増え、社会問題になった。多剤大量処方された患者の中には、薬の副作用で動けなくなり、寝たきりになる人もいた。そこで近年は、日本うつ病学会など関係学会が多剤大量処方を選ばないように警鐘を鳴らすようになった。今

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

しかし、精神科の受診者が増えるのにもない、抗うつ薬に加えて、抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬など何種類もの薬を大量に処方される患者が増え、社会問題になった。多剤大量処方された患者の中には、薬の副作用で動けなくなり、寝たきりになる人もいた。そこで近年は、日本うつ病学会など関係学会が多剤大量処方を選ばないように警鐘を鳴らすようになった。今

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

か医師に相談すべきでしょう。それも、二、三回血液検査をすればわかります。ただ、なんでも薬のせいにならぬ結果、調子がよくなって、たくさん食べるようになった可能性も考える必要があります」

統合失調症の中には、薬なしでも妄想や幻覚と上手につきあって、問題なく生活している人もわずかだが、活している人もわずかだが、できるだけ少量の薬で生活していきけるように、統合失調症の人の生活をサポートする社会体制づくりも大切だ。ただ、生涯にわたって薬を飲み続ける人も多いため、多量の服用によるリスクを少なくするために、できるなら薬は減らすべきだろう。山之内医師がアドバイスする。

「若い人よりも、むしろ高齢者で飲み過ぎの人が少なくありません。老化で体や脳が小さくなり、薬を排泄する腎機能も悪くなっているのに、昔のやり方のまま何種類もの薬を出されているからです。血中濃度が上がり過ぎると手足が震え、筋肉がこわばる副作用が出ます。ですから、医師に相談して、適正な量に減らしてもらおうといひでしょう」

「頭痛薬は飲み過ぎると、薬のために頭痛が誘発される『薬物乱用頭痛』になってしまう。週刊現代ではトリプタン製剤の一つ「イミグラン」が、薬物乱用頭痛を引き起こす薬として名指して批判されていた。だが、頭痛の専門家である立岡神経内科院長の立岡良久医師はこう反論する。

「頭痛学会の専門医なら、そんなことは百も承知です。日本頭痛学会でも全国の医師会を回って、年間四十回講習会を行ってきました。その結果、トリプタン製剤の使用過多による頭痛（薬物乱用頭痛）はかなり減りました。そもそも、この薬がなかった頃は、頭痛で自殺した人がいたんですよ。昨日来た頭痛の患者さんも、奥さんに『首を絞めてくれ』と叫び通しだったそうです。そんな人に薬を

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

「抗うつ薬や抗不安薬、抗精神病薬、睡眠薬といった向精神病薬は、『たった一錠でも脳に影響を与える』という意識が必要で、昼間に飲むビールよりも、精神状態に影響するのです。だいたいどんな薬も、二〜三カ月以上飲むと、脳の状態が変わっています。そのため、急に薬をやめると離脱症状が出るのです」

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

抗うつ薬の離脱症状とはどのようなものか。田島医師によると、頭痛、めまい、吐き気に加え、「シヤンピ

次号8月11・18日は夏の特大号 8月23日(水)発売、特別定価4300円です